

プラスチックのリサイクル事業が本格化

◆欧州でプラスチックのリサイクル事業が本格化してきている

2021年9月、Shell は、プラスチック廃棄物を熱分解油に変換する技術をもつオランダのBlueAlpの株を21.25%取得したと発表した。合弁会社を設立し、オランダとドイツに2つのプラントを建設する。これらのプラントは、23年に稼働する予定であり、年間3万トン以上のプラスチック廃棄物を処理できる。

また、BPは、21年9月、プラスチックリサイクル技術をもつ米国のBrightmarkと熱分解によるプラスチック廃棄物のリサイクルプラント建設の評価を共同で実施すると発表した。オランダ、ドイツ、ベルギーでの建設を評価する。

◆アジアでもプラスチックのリサイクル事業に向けた動きが始まっている

21年8月、三菱ケミカルは、イギリスのMura TechnologyのHydroPRS技術を用いたプラスチック廃棄物のリサイクルプラントを茨城県に建設するプロジェクトを開始したと発表した。

HydroPRS技術は、水熱プラスチックリサイクルソリューションの略であり、高温高圧の超臨界水中で有機物を触媒分解して、油分と化学品を得る技術である。23年に建設が完了する予定であり、年間2万トンのプラスチック廃棄物を処理する能力を持つ。

韓国のSKも米国のPurecycle Technologiesと廃プラスチックリサイクルを行う合弁会社を設立すると21年8月に発表した。22年に韓国でリサイクル工場の建設を開始し、25年からの稼働を目指している。年間約5万トン規模のポリプロピレン廃棄物をリサイクルできる。このリサイクル工場で採用されるPurecycle Technologiesの技術は、まず、ポリプロピレン廃棄物から色、臭い、汚染物質を分離して、超高純度のリサイクルポリプロピレンに変換する。SKは、世界最大の都市油田会社になると宣言している。

マクドナルドが、ハッピーセットのプラスチック玩具を、バージンの石油を使わない原料にすると発表するなど、プラスチックのリサイクルが注目されている。アルミ缶のようなリサイクルシステムが望まれる。 【松村晴雄】